

# 適期刈り取り【予測】

～刈取り開始期の判断を的確に～

本年は7月から8月にかけて高温で推移したことから、コシヒカリは9月上中旬、日本晴は9月中下旬の収穫が予想されます。収穫が近づいたら穂の状態をこまめに観察し、適期収穫に努めてください。成熟期は品種ごとに出穂後の積算温度でおおよそ推測できますが、登熟期間中の気温の高低により変動しますので、籾水分や穂の黄化率で時期を補正し、刈取り日を決定しましょう。



## 収穫時期の目安（品種・地帯別）

品種名	田植日	出穂期	出穂後の目安日数	予想収穫開始日
コシヒカリ(平坦地)	5月20日	7月30日	37日間	9月5日頃
コシヒカリ(山間地)	5月13日	7月30日	41日間	9月8日頃
日本晴	5月10日	8月4日	45日間	9月18日頃

## □ 籾水分を測って刈取りを決めよう



全ての品種において、刈取り開始期の目安となる立毛中の籾水分は25%です。籾水分が30%以下になれば玄米水分計で計ることができます。籾水分は30%以上の場合1日あたり0.9%程度低下します。30%以下になり収穫が近づくと(出穂後24～27日頃以降)、1日あたり0.5～0.6%くらい減少します。著しく刈り取りが遅れたりする(籾水分20%以下になる)と胴割粒が発生しやすくなりますので、収穫直前までの間断通水とあわせて適期刈り取りに努めましょう。

## 1穂あたりの青籾割合による補正

積算温度による収穫時期の判断だけでは難しいため、穂の様子をこまめに観察する必要があります。穂の外観上の収穫適期の目安は、穂元に緑色籾が10～15%残った状態です。圃場の何ヶ所(生育が比較的均一で圃場全体を代表できるところ)かで、5～6本の穂を束ねて手のひらに広げてみる。籾が全部黄色になる頃には、穂の先の籾が刈遅れの状態になっていることが多いため、穂元のほうに薄緑色した籾の割合が10%～15% (青籾割合が50%となってから約9～10日後)を下回ったら刈取を始め、5%程度になる頃に刈り終えるように心がけましょう。



# 根を育む土づくりから

～健全な稲体は健全な根が支え、健全な根は健全な土が支える～

管内の土壌診断を行ってみると、稲が生育するのに必要なけい酸の土壌含有量が15mg/100gであるのに対し、その3分の1程度しかないのが現状です。この傾向は、越前たけふ管内全域に共通しております。

又、稲が生育する際、土壌の最適PHは微酸性～弱酸性（PH5.5～6.5）が良いとされていますが、近年強酸性（PH5.0～5.4）の土壌が多くなってきています。

そのためにも来年度の良質米生産に向けて下記に紹介した資材を稲刈り後、早めに散布し耕起して下さい。

## ★土づくり資材の無料散布（下記のいずれかを散布して下さい）

■ 平成31年度の春の無償散布受託は行いませんので、忘れずにお申込みください

◎ ケイカル（砂）・・・10aあたりの施用量 500 kg

ケイカル 500 kg散布による、ケイ酸の	資材費	13,500 円（税込）
適正量の供給による稲体の健全化と高温	<u>購入助成 ▲3,000 円（税込）</u>	
障害のよる品質低下の回避	負担額	10,500 円（税込）

◎ 粒状しきぶホワイトもしくは、ホワイトカリウ 10aあたりの施用量 100 kg

ケイ酸要求度の高い資材で、生育中期か	資材費	9,500 円（税込）
ら後期にかけてケイ酸供給機能が高く、	<u>購入助成 ▲1,000 円（税込）</u>	
収量構成要素の各段階で作用し登熟歩合	負担額	8,500 円（税込）
および収量を高めます。		

粒状しきぶホワイト・ホワイトカリウは特裁認証①では使用できませんのでご注意ください

## ☆ケイフンは秋のワラ処理として

地力の乏しい地域では、粒状しきぶホワイト・ホワイトカリウの施用にプラスして、腐植を高めるケイフン散布を行いましょう。

◎ ケイフン・・・10aあたりの施用量（目安）100 kg～150 kg

ライムソーワで散布

（粉） 105 円／15 kg（税込：引取）

（ペレット：動力散布機で散布可能） 237 円／15 kg（税込：引取）

ケイフンについては無償散布を行っておりません。ご了承ください